



平成26年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年11月12日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブレインパッド
コード番号 3655 URL <http://www.brainpad.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 草野 隆史 (戸籍名: 高橋 隆史)
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 池田 直紀 TEL 03-6721-7001
四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年6月期第1四半期の連結業績（平成25年7月1日～平成25年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第1四半期	466	11.1	△38	—	△58	—	△41	—
25年6月期第1四半期	419	—	20	—	16	—	8	—

(注) 包括利益 26年6月期第1四半期 △41百万円 (—%) 25年6月期第1四半期 8百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年6月期第1四半期	△6.21	—
25年6月期第1四半期	1.30	1.27

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年6月期第1四半期	1,570	1,045	66.4
25年6月期	1,452	1,082	74.3

(参考) 自己資本 26年6月期第1四半期 1,042百万円 25年6月期 1,079百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年6月期	—	—	—	—	—
26年6月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成26年6月期の連結業績予想（平成25年7月1日～平成26年6月30日）

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

平成26年6月期の業績予想につきましては、売上高と営業利益は平成25年6月期を上回ると見込んでおります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）株式会社ミディー、除外 1社（社名）－

（注）詳細は、添付資料P. 4「2.（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年6月期1Q	6,675,940株	25年6月期	6,605,016株
② 期末自己株式数	26年6月期1Q	34株	25年6月期	34株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年6月期1Q	6,637,302株	25年6月期1Q	3,291,650株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の緩やかな回復と円安の進行を背景とした輸出の増加や、公共投資の伸長等により、景気の回復傾向が続きました。国内企業の収益が改善する中、設備投資も緩やかな増加傾向にあり、国内のITサービス市場は低成長ながらも、緩やかに拡大を続けております。

このような中、当社グループは、ビッグデータ分析のリーディングカンパニーとして、データ分析に関連する3事業をワンストップで展開できる強みを活かし、3事業横断型の提案による案件の大型化及び豊富な導入実績を活かした顧客開拓による既存事業の伸長と、中長期的な成長目標の実現に向けた事業領域の拡大の両面に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間においては、営業部門と各事業部門との連携強化による既存案件の継続化と拡大化の効果により、売上高は順調な立ち上がりにて推移しております。また、事業領域の拡大のための新規投資として、株式会社ミディーへの出資による連結子会社化と、中国に続く海外拠点となる米国現地法人の設立を行いました。一方、業容拡大に対応するための本社オフィスの移転や、東京証券取引所市場第一部への市場変更に係る一時的な費用が発生いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高466,020千円（前年同四半期比11.1%増）となり、営業損失38,315千円（前年同四半期は営業利益20,141千円）、経常損失58,357千円（前年同四半期は経常利益16,401千円）、四半期純損失41,194千円（前年同四半期は四半期純利益8,555千円）となりました。

続きまして、セグメント別の業績は次のとおりです。

以下のとおり、3事業ともに売上高は伸長しておりますが、上述の本社オフィス移転に伴う償却費用や備品購入費用等が一時的に発生した影響もあり、売上高の成長に比べるとセグメント利益の成長は限定的であります。第2四半期から期末にかけては、さらなる売上増と、事業ごとの生産性の向上に取り組んでまいります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。また、従来の「ASP関連事業」を「マーケティングプラットフォーム事業」に名称変更しております。

(アナリティクス事業)

アナリティクス事業は、企業の有する大量データを分析するデータマイニングと、その分析結果に基づく企業行動の最適化支援を、幅広い顧客向けに提供している当社グループの主要事業です。

当第1四半期連結累計期間におきましては、営業部門との連携をさらに強化し、データ分析の受注促進に向けたプリセールス(注1)に注力する一方、当社グループの分析力を活かした新規事業として教育ビジネスに参入し、「データサイエンティスト入門研修」の提供を開始いたしました。

この結果、売上高は167,453千円（前年同四半期比6.1%増）、セグメント利益は21,903千円（前年同四半期比61.3%減）となりました。

(ソリューション事業)

ソリューション事業は、顧客企業に対して、データ分析及び分析結果に基づくマーケティング活動に必要なソフトウェアのライセンス提供とシステム開発を行っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、前期から続く「ビッグデータ」トレンドによるBI(注2)・BA(注3)ツールの需要拡大を商機とし、主力製品である「KXEN Infinite Insight®」(データマイニング・ソフトウェア)を中心に、営業活動に注力いたしました。

この結果、売上高は131,714千円（前年同四半期比1.5%増）、セグメント利益は31,344千円（前年同四半期比45.6%増）となりました。

(マーケティングプラットフォーム事業)

マーケティングプラットフォーム事業(当第1四半期連結累計期間より、従来の「ASP関連事業」から事業セグメント名を変更)は、当社が着目したデータ分析系のアルゴリズムから独自性の強いソフトウェアを自社開発し、ASPサービス(注4)による顧客企業への提供と、その保守業務等を行っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、ストックビジネス(注5)の伸長による安定的な収益確保を図ることを目的に、「Rtoaster」(Webプラットフォーム・レコメンドエンジン)や、新サービス「Rtoaster Ads」を中心に、展示会への出展や自社セミナーの開催などの販売促進活動に取り組みました。

また、当事業の主力サービスである「Rtoaster」、「L2Mixer」(リスティング広告の最適化ツール)について、大幅なユーザビリティ向上と他社製品との差別化を図るため、管理画面の全面リニューアルと機能追加に向けた開発に注力いたしました。

この結果、売上高は166,852千円（前年同四半期比26.5%増）、セグメント利益は39,215千円（前年同四半期比26.7%減）となりました。

(注1) システムの構築やソフトウェア製品の販売・導入の際に、営業担当者に同行し、技術的な知識を用いて営業

担当者をサポートすること。

(注2) ビジネスインテリジェンス (Business Intelligence) の略。企業等の組織のデータを、収集・蓄積・分析・報告することで、経営上の意思決定に役立てる手法や技術のこと。

(注3) ビジネスアナリティクス (Business Analytics) の略。企業等の組織のデータを最大限に活用し、将来起こり得る事態を予測することによって、経営上の意思決定に役立てること。

(注4) アプリケーションソフトの機能をインターネットを通じて顧客に提供すること。

(注5) 顧客数に応じて比例的に安定収益を得られるビジネスのこと。「Rtoaster」「L2Mixer」は、ASPサービスの月額利用料や保守料等が売上の中心を占める。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の流動資産の残高は、850,846千円となり、前連結会計年度末に比べ105,592千円減少しました。これは主に受取手形及び売掛金の減少172,560千円、仕掛品の増加33,489千円、繰延税金資産の増加11,928千円によるものであります。

また固定資産の残高は、719,407千円となり、前連結会計年度末に比べ222,981千円増加しました。これは主に有形固定資産の増加106,772千円、のれんの増加75,587千円、無形固定資産その他の増加46,188千円によるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べ117,389千円増加し、1,570,253千円となりました。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の流動負債の残高は、436,763千円となり、前連結会計年度末に比べ76,777千円増加しました。これは主に短期借入金の増加100,000千円、買掛金の減少30,960千円によるものであります。

また固定負債の残高は、88,295千円となり、前連結会計年度末に比べ77,446千円増加しました。これは主に長期借入金の増加45,031千円、資産除去債務の増加32,414千円によるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ154,223千円増加し、525,058千円となりました。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、1,045,195千円となり、前連結会計年度末に比べ36,834千円減少しました。これは主に利益剰余金の減少41,194千円によるものであります。この結果、自己資本比率は66.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後も、ビッグデータ活用に対する関心の高まりにより、データ分析関連ビジネスを取り巻く市場は堅調に拡大するものと予想されます。このような中、当社グループの業績は、前期第4四半期(平成25年4月～6月)からの拡大回復基調を引き継ぎ、売上高、利益ともに前年を上回るものと見込んでおります。

(業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、経済環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。)

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結累計期間において、新たに設立したBrainpad US Inc. 及び、新たに株式を取得した株式会社ミディーの両社を連結の範囲に含めております。

この結果、当社グループは、平成25年9月30日現在では、当社及び連結子会社4社により構成されております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度末 (平成25年6月30日)	当第1四半期連結会計期間末 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	368,412	376,619
受取手形及び売掛金	500,360	327,800
仕掛品	1,005	34,495
繰延税金資産	8,993	20,921
その他	77,665	91,008
流動資産合計	956,438	850,846
固定資産		
有形固定資産	105,466	212,239
無形固定資産		
ソフトウェア	263,542	252,604
のれん	—	75,587
その他	14,831	61,020
無形固定資産合計	278,374	389,212
投資その他の資産	112,585	117,955
固定資産合計	496,426	719,407
資産合計	1,452,864	1,570,253
負債の部		
流動負債		
買掛金	68,474	37,514
短期借入金	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	9,996	9,996
未払金	60,461	73,015
未払費用	106,559	134,555
前受収益	51,332	67,539
未払法人税等	13,510	1,176
その他	49,651	12,965
流動負債合計	359,986	436,763
固定負債		
長期借入金	10,849	55,880
資産除去債務	—	32,414
固定負債合計	10,849	88,295
負債合計	370,835	525,058

(単位：千円)

	前連結会計年度末 (平成25年6月30日)	当第1四半期連結会計期間末 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	327,317	329,693
資本剰余金	304,017	306,393
利益剰余金	446,080	404,886
自己株式	△23	△23
株主資本合計	1,077,392	1,040,950
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,149	1,818
その他の包括利益累計額合計	2,149	1,818
新株予約権	2,487	2,426
純資産合計	1,082,029	1,045,195
負債純資産合計	1,452,864	1,570,253

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)
売上高	419,567	466,020
売上原価	223,118	293,829
売上総利益	196,448	172,190
販売費及び一般管理費	176,307	210,506
営業利益又は営業損失(△)	20,141	△38,315
営業外収益		
受取利息	49	112
その他	0	986
営業外収益合計	50	1,099
営業外費用		
支払利息	400	166
支払手数料	3,262	19,597
その他	127	1,377
営業外費用合計	3,789	21,141
経常利益又は経常損失(△)	16,401	△58,357
特別利益		
新株予約権戻入益	—	61
特別利益合計	—	61
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	16,401	△58,296
法人税、住民税及び事業税	958	139
法人税等調整額	6,887	△17,251
法人税等合計	7,846	△17,112
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	8,555	△41,184
少数株主利益	—	9
四半期純利益又は四半期純損失(△)	8,555	△41,194

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	8,555	△41,184
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	△340
その他の包括利益合計	—	△340
四半期包括利益	8,555	△41,525
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,555	△41,525
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	アナリティクス事業	ソリューション事業	マーケティングプラ ットフォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	157,873	129,801	131,893	419,567	—	419,567
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	157,873	129,801	131,893	419,567	—	419,567
セグメント利益	56,549	21,531	53,492	131,573	△111,432	20,141

(注)1 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用111,432千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等における一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	アナリティクス事業	ソリューション事業	マーケティングプラ ットフォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	167,453	131,714	166,852	466,020	—	466,020
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	167,453	131,714	166,852	466,020	—	466,020
セグメント利益又は損 失(△)	21,903	31,344	39,215	92,464	△130,780	△38,315

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用130,780千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等における一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益または損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは当期首に、事業領域やサービス内容の拡充に伴う社内体制の変更を行いました。これは、商材やプロジェクト単位での収益管理に従来以上に重点を置き、より効果的な事業管理を行うことを目的とするものです。これに伴い、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントを従来の「アナリティクス事業」「ソリューション事業」「ASP関連事業」の3区分から、「アナリティクス事業」「ソリューション事業」「マーケティングプラットフォーム事業」の3区分に変更し、各セグメントに帰属する商材・サービスの一部組み替えを行いました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

アナリティクス事業において、株式会社ミディーを連結子会社化したことに伴い、のれんの金額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において75,587千円であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。